

# 2009 セミナー&シンポジウム 《色彩心理》

2009年 3月27日（金）— 28日（土） 大阪市立大学文化交流センター ホール

協賛：照明学会関西支部，人間工学会関西支部，日本デザイン学会第4支部，映像情報メディア学会関西支部，ヒューマンインタフェース学会，京都工芸繊維大学人間指向型工学研究センター，京都工芸繊維大学『光と色』研究会，京都工芸繊維大学総合プロセス研究センター

日 時：2009年3月27日（金）  
10:30-16:30（受付開始 10:00）  
会 場：大阪市立大学文化交流センター ホール  
大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階  
Tel. 06-6344-5425

色彩の心理効果をどのようにして明らかにすればいいのか、本当に効果があるのかといった素朴な疑問に答えようとすると、光と色に関する基礎的な知識を必要としますし、心理実験のノウハウも必要になります。様々な状況における色彩効果について説明することは不可能ですので、このセミナーでは色彩の心理効果の基礎に重点をおいた講演を企画致しました。

第1セッションでは、色彩心理に造詣の深い京都大学大学院の石田泰一郎先生に光と色の基礎についてご紹介頂き、ご自身の景観色彩に関する研究についてもわかりやすくご説明頂きます。

次いで、第2セッションでは、住まいの視環境や商業空間の照明設計などで幅広く活躍の大手前大学の 大野治代先生に、色彩の持つ安全・安心への効果についてやさしくお話し頂きます。

最後の第3セッションでは、景観、公共施設、病院等の色彩計画で著名な九州大学大学院の佐藤優先生に、色彩の利用効果について実例を交えてご紹介頂きます。みなさまの普段の疑問や不思議にお答えできるセミナーですので、奮ってご参加ください。

実行委員長 森本 一成（京都工芸繊維大学大学院）

<第1セッション> 10:30-12:00

●石田 泰一郎氏（京都大学大学院工学研究科建築学専攻准教授）

## 「生活環境の光と色」

生活環境の光や色は私たちの心理に様々な形で作用しています。快適で豊かな環境を作るためには、光や色を上手く取り入れることが必要です。ところで、そもそも色はどのようにして私たちの心理に作用しているのでしょうか。その答えは私も探し求めているところです。今回はこの問いを出発点として、生活環境の光と色の問題を考えてみたいと思います。そのための題材として、単色のイメージと建築インテリアの印象評価の関係、照明の色と心理評価、都市景観色彩の心理評価に関する研究をわかりやすく紹介する予定です。今回の話を通して、光と色を生活環境のデザインに活かすためにはどのような考え方や方法が必要となるのか、皆さんと共に考え、その手掛かりを得るための機会としたいと思います。

講師略歴：東京工業大学大学院物理情報工学専攻博士課程修了、工学博士。日本色彩学会、日本建築学会、照明学会、日本視覚学会等、会員。建築光環境、色彩、視覚認知を専門とする。

◆第3セッション終了後 質疑応答（全体）16:10-16:30



回をかさねてきた「色彩基礎セミナー」と「カラーコーディネーターシンポジウム」の参加者から強く希望されるテーマに「色彩心理」があります。また、カラーを扱う世界で色彩心理ほど頻繁に耳にする言葉もほかにはありません。

色彩心理は研究の幅も広く奥も深い手ごわい分野ですが、今回のセミナーとシンポジウムでは、それぞれのフィールドでご活躍の先生方から、その領域での色彩心理を、やさしく、わかりやすく解説していただきます。

<第2セッション> 13:00-14:30

●大野 治代氏（大手前大学メディア・芸術学部教授）

## 「色彩から考える安全・安心」

近年設置され始めた青色防犯照明は、英国グラスゴーのブキャナン通りに設置された青色照明が「防犯効果があった」という情報に基づいているとのことである。しかし、実際に青色防犯照明が設置された場所を訪れると、本当にそうなのかと思う。また、建物に表示されている安全色彩はその役目を果たしているのだろうかと思う。これらの疑問について、青色防犯照明下の見え方の実態調査結果、並びに安全色彩の見え方が若齢者と高齢者で年代による差異があるのか、色温度を変えた場合にはどう変わるのかについて実験結果から一緒に考えてみましょう。

講師略歴：大阪市立大学生活科学部住居学科卒、静岡大学施設課（文部技官）、大阪大学工学部建築工学科助手、大阪大学工学博士取得（1980）、大手前女子短期大学助教授、大手前大学社会文化学部教授、大手前大学メディア・芸術学部教授。

<2> 15:00-16:00

●山本 洋紀氏（京都大学大学院准教授）

## 「脳の研究からみた色彩」

私たちが見ている世界は、カメラのように外界をそのまま映し出したものではなく、私たちの脳が外界を解釈した結果、いわば、心の絵であり、独特の癖のあるものです。色彩世界も同じです。色彩は外界にあるのではなく、無意識の心の働きで生まれるものです。ゆえに、色彩には普段は気づかない不思議な性質が数多くあります。講演では、様々なデモンストレーションを通じて、色彩の不思議を実感し、それを産み出す心の仕組みについて考えてみたいと思います。

講師略歴：京都大学大学院人間・環境学研究科准教授 共生人間学専攻認知行動科学講座、心理学および脳機能イメージング法を用いて、ヒト大脳の色覚過程を調べている。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程単位取得退学（1998年）。京都大学人間・環境学博士（2000年）。2000年より、京都大学大学院人間・環境学研究科准教授。京都精華大学芸術学部非常勤講師（造形心理学）。京都女子大学家政学部非常勤講師（色彩学）。

<1> 13:20-14:50

●北岡 明佳氏（立命館大学教授）

## 「色の錯視と残像」

色の錯視のレビューを行なう。色の錯視は種類が多く、インバクトが強いものも多く見られる割には、錯視としてはよく知られていない。色相の錯視としては、色の対比と色の同化程度

の分類が、現在も色彩学や心理学の教科書では標準的である。本講演では、ムンカー錯視、色の土牢錯視、ドット色錯視など、強力な色相の錯視を解説するとともに、色相の錯視の残効についても考察する。

講師略歴：1961年高知県生まれ。1991年、筑波大学大学院博士課程心理学研究科修了、教育学博士。2001年より、立命館大学文学部助教授、2006年より同教授、現在に至る。現在の専門は知覚心理学。2006年、第9回 ロレアル 色の科学と芸術賞の金賞を受賞。



日 時：2009年3月28日（土）  
13:10-16:45（受付開始 12:45）  
会 場：大阪市立大学文化交流センター ホール  
大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階  
Tel. 06-6344-5425

今回のシンポジウムのテーマは色彩心理です。第9回 ロレアル 色の科学と芸術賞の金賞を受賞された立命館大学の北岡明佳先生と、京都大学大学院の山本洋紀先生のお二人の先生をお招きしました。

ご講演では、色の錯視のレビューや様々なデモンストレーションを見せていただきます。色の不思議な世界を体験していただくとともに、知覚の心理と心の仕組みについての貴重なお話を伺います。

実行委員長 松田 博子（カラーコンサルタントスタジオ）

◆タイムテーブル  
12:45- 受付開始  
13:10-13:20 関西支部長挨拶等  
13:20-16:00 講演2題  
16:00-16:45 質疑応答（ディスカッション）

申 込			
「セミナー&シンポジウム同時参加」、「セミナー参加」、「シンポジウム参加」と明記し、氏名、連絡先(e-mailまたはFax)、会員種別を記入のうえ、下記までお申し込みください。 企画の趣旨によりセミナー&シンポジウム同時参加者を優先します。			
日本色彩学会関西支部（辻埜） 〒541-0048 大阪市中央区瓦町4-3-14-812 Tel.06-6231-4071 Fax.06-6231-4073 E-mail: tsujino@gold.ocn.ne.jp			
●定員：セミナー 60名 シンポジウム 80名			
●参加費（当日申し受けます *釣銭が要らないようにご準備ください）			
	会員	一般	学生
セミナー	9,000円	14,000円	5,000円
シンポジウム	3,000円	4,000円	2,000円
同時参加	10,000円	16,000円	6,000円
<協賛団体の会員は、会員料金でご参加いただけます>			